

# 防災推進国民会議の 活動報告

---

平成30年12月25日  
第4回防災推進国民会議

# 1. 防災推進国民大会2018

我が国の防災に関する活動を行う多様な団体・機関が一堂に集い、「防災推進国民大会2018」を平成30年10月13日、14日に東京ビッグサイト、国営東京臨海広域防災公園において開催した(来場:約12,000人)。「自助・共助」の大切さ等を訴えるなどにより国民の防災意識の向上等を図った。

## 第3回実施概要

【テーマ】大規模災害に備える

～みんなの連携の輪を地域で強くする～

【日時】平成30年10月13日(土)～14日(日)

【場所】東京ビッグサイト、そなエリア

【来場者数】約1万2千人

【主催】内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議

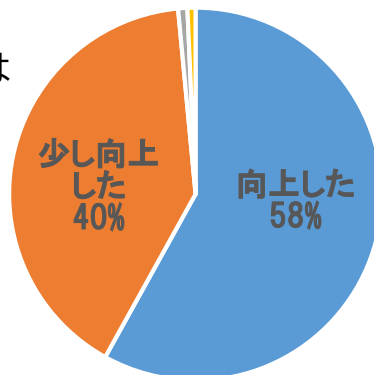
【合同開催】東京都主催「防災展2018」

【出展者数】セッション(35)、プレゼンブース(45)、ポスター(18)、テントブース(9)、ワークショップ(7)、屋外展示(5)



【アンケート結果】(回収数:863名)  
Q. 大会に参加されてあなたの防災意識は向上しましたか。

- ・ 向上した 58.0%
- ・ 少し向上した 40.4%



そなエリア ブース展示：国土地理院



# 1. 防災推進国民大会2018



全国消防長会（東京消防庁）による  
放水体験ができる車両展示



内閣府・TEAM防災ジャパンによる  
防災リーダー交流ワークショップ



東京ビッグサイトブース展示の様子



日本赤十字社による  
救命ワークショップ



日本生活協同組合連合会による  
「ローリングストック」の紹介



全国労働者共済生活協同組合連合会  
による災害写真パネル展示



## 2. 津波防災に関する普及啓発

「津波防災の日」スペシャルイベントを平成30年11月5日に開催した(来場:約400人)。津波の最新科学から得られた知見を紹介するとともに、全国8地区において行われている、「津波に備える地区防災計画」の取組を紹介し、津波防災意識の向上を図った。

【日時】 平成30年11月5日(月) 14時00分～18時00分

【場所】 川崎商工会議所 KCCIホール

【出席者】 363名(定員300名の会場)

【プログラム】

- 開会挨拶 (舞立昇治 内閣府大臣政務官、福田紀彦 川崎市長)
- 緊急報告 『9月28日にインドネシアで発生した地震・津波について』
- セッション1『地域における津波防災の取組みと地区防災計画の役割』
- セッション2『川崎市の津波防災 ～企業・地域での最新科学活用に向けて』
- セッション3『地域・企業・学校における これからの津波防災』
- 閉会挨拶 (今村文彦 東北大学災害科学国際研究所所長)



パネルディスカッション  
「地域における津波防災の取組と地区防災計画の役割」

- 緊急報告では、9月28日**インドネシア・スラウエシ島で発生した津波**について現地調査を行った今村所長から、今回の地震津波は地震断層に起因するものではなく、海底の地滑りにより発生した津波であることが判明し、液状化による建物倒壊により被害が拡大した可能性がある旨報告が行われた。
- セッション1・2では、**津波に備える「地区防災計画」の策定に取り組む全国8地区**(平成30年度内閣府支援対象)の代表者から、これまでの活動報告(中間報告)が行われ、それぞれの地域が抱える課題の共有と今後の活動方針について発表が行われた。
- セッション3では、パネルディスカッション方式により、地区代表や民間企業、学識経験者、国及び自治体それぞれの立場から、**津波防災における地域との連携の必要性、企業や学校教育の果たすべき役割**について見解が示され、これからの津波防災について討議を深め、参加者と意識の共有を行った。

## 2. 津波防災に関する普及啓発

### ○開会挨拶



舞立政務官挨拶



川崎市長挨拶

### ○緊急報告『9月28日にインドネシアで発生した地震・津波について』



今村教授（東北大学災害科学国際研究所所長）講演



会場の様子

# 3. TEAM防災ジャパン

防災に関するポータルサイト「TEAM防災ジャパン」により、議員が属する団体・組織が実施する防災の普及啓発活動を適時適切に発信したほか、ツイッター等を通じて防災リーダー双方の関係構築を目指した。

特に、7月豪雨の際、ボランティアに関する募集情報をリアルタイムで発信したほか、熱中症等ボランティアの安全に係る注意喚起を促す等の活動を積極的に行った。

平成30年度上半期のアクセス数(月間平均)は80,217(昨年度同期比168%)。



## 平成30年7月豪雨と 防災ボランティア・NPO

※被災地でのボランティア活動を希望されている方々は是非ご覧ください。

ボランティア参加促進  
キャンペーンチラシ  
(第1弾)

ボランティア参加促進  
キャンペーンチラシ  
(第2弾)

ボランティア参加促進  
キャンペーンチラシ  
(第3弾)

**Q.どの地域で多くのボランティアを募集していますか？**

> 詳しくはこちらをご確認ください。

**Q.どうすればボランティア活動保険に加入できるのでしょうか？**

> 詳しくはこちらをご確認ください。

**Q.ボランティア活動に係る有料道路利用は無料ですか？**

> 詳しくはこちらをご確認ください。

**内閣府**  
Cabinet Office, Government of Japan  
防災情報のページ

TEAM防災ジャパンとは、内閣府(防災担当)が運営する防災に関するあらゆる情報が集約されたポータルサイトです。全国各地で行われている防災イベントの紹介、防災に関するニュースや防災教育コンテンツの提供を行うほか、様々な団体が作成している防災に関する資料などを集約しています。

**内閣府**  
平成30年版防災白書

第34回  
**防災ポスターコンクール**  
作品募集

11.5  
津波防災の日

## 防災ボランティア参加促進 キャンペーンチラシ (7月27日付)

西日本豪雨の被災地では、  
まだまだボランティアの力を  
必要としています。

必要な支援は力仕事だけではなく

平成30年7月豪雨の被災地では多くの人がボランティアとして活動しています。しかしながら被災地は広範囲に及び、より多くのボランティアの力を必要としている地域が多くあります。

被災地のボランティアの活動は、主に個人での活動しや単体の集まりが中心です。避難所や被災地での活動のサポート、防災教育の提供、コミュニティ活動のサポートなど、多岐にわたる支援が必要とされています。

長期的な支援が必要です

このように活動を継続していくためには、企業、行政機関、大学などの単位で、継続的・長期的に活動していく体制づくりが重要です。必要に応じて自治体職員、防災士などのボランティア活動に参画し、活動のサポートや活動の継続を支援する体制づくりが重要です。被災地での活動は、継続的な支援が必要とされています。

支援者にも十分な休息が必要です

活動者から支援者以上の役割を求め、その結果、ボランティアセンターの運営スタッフやボランティアなど、支援活動にあたる方の中には、十分な休息がとれないままに活動している方がいます。活動者も十分な休息をとってください。

以下のサイトから、ボランティア活動を継続している被災地ボランティアセンターがご覧いただけます。  
必要な近くの被災地で、活動を必要としている場合があります。  
公益財団法人 被災地支援・災害ボランティア情報  
<https://www.saigaivc.com/>

6



### 3. TEAM防災ジャパン

メンバーである防災リーダーが対面で活動状況や課題を情報共有するオフライン会合を2回実施した。

#### ○第3回

【日 時】平成30年 6月 9日（土） 13:00～17:30

【場 所】名古屋大学減災館

【参加者】約130名

- ・名古屋における防災の取組を発表
- ・減災館見学ツアー
- ・「各地域の取組と防災リーダー」をテーマにプレゼンテーション



#### ○第4回

【日 時】平成30年 10月13日（土） 12:30～18:00

【場 所】そなエリア（東京臨海広域防災公園）

【参加者】約100名

- ・紙ぶるるやお菓子を使った実験を通じて「建物耐震化」について学ぶワークショップ
- ・テーマに分かれて、ラウンドテーブル
- ・ぼうさいこくたい観覧ツアー

